

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.1.17-23-

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

5:1 群衆がイエスに押し迫るようにして神のことばを聞いたとき、イエスはゲネサレ湖の岸べに立っておられたが、

5:2 岸べに小舟が二そうあるのをご覧になった。漁師たちは、その舟から降りて網を洗っていた。

5:3 イエスは、そのうちの一つの、シモンの持ち舟にのり、陸から少し漕ぎ出すように頼まれた。そしてイエスはすわって、舟から群衆を教えられた。

5:4 話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われた。

5:5 するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましょう。」

5:6 そして、そのとおりにすると、たくさんの魚がはいり、網は破れそうになった。

5:7 そこで別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。彼らがやって来て、そして魚を両方の舟いっばいに上げたところ、二そうとも沈みそうになった。

5:8 これを見た

。これから後、あなたは人間をとるようになるのです。」

5:11 彼らは、舟を陸に着けると、何もかも捨てて、イエスに従った。

シモン・ペテロの召命（働きのために召し出されたこと）の記録です。主の働きのために呼ばれることは光栄なことですが、実は誰もが主からこのように呼ばれているのです。

主は無理やりに人を苦しめて召すような方ではありません。私たちに對してもこのように、仕事など日常の中で恵と力を表して、その聖なる権威などについてはこれを納得させた上で、尊い働きのために、「あなたは人間をとるようになるのです。」と、宣言と約束で召してくださるのです。

ただ、ペテロのように、主に従って網をおろすような従順さがあるかどうか、また、恵を受けた後でひれ伏す信仰があるかどうかです。多くの人は大漁の後に、儲けを計算するのかも知れません。

主からのあなたへの”召し”は何でしょうか。その召しに従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶18日 火曜

ルカ



5:12 さて、イエスがある町におられたとき、全身らい病の人がいた。イエスを見ると、ひれ伏してお願いした。「主よ。お心一つで、私はきよくしていただけます。」

5:13 イエスは手を伸ばして、彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。すると、すぐに、そのらい病が消えた。

5:14 イエスは、彼にこう命じられた。「だれにも話してはいけない。ただ祭司ののころに行って、自分を見せなさい。そして人々へのあかしのため、モーセが命じたように、あなたのきよめの供え物をしなさい。」

5:15 しかし、イエスのうわさは、ますます広まり、多くの人の群れが、話を聞きに、また、病気を直してもらいに集まって来た。

5:16 しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。

5:17 ある日のこと、イエスが教えておられると、パリサイ人と律法の教師たちも、そこにすわっていた。彼らは、ガリラヤとユダヤとのすべての村々や、エルサレムから来ていた。イエスは、主の御力をもって、病気を直しておられた。

5:18 するとそこに、男たちが、中風をわずらっている人を、床のままで運んで来た。そして、何とかして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとしていた。

5:19 しかし、大ぜい人がいて、どうにも病人を運び込む方法が見つからないので、屋上の上って屋根の瓦をはがし、そこから彼の寝床を、ちょうど人々の真中のイエスの前に、つり降ろした。

5:20 彼らの信仰を見て、イエスは「友よ。あ

なたの罪は赦されました。」と言われた。5:21 ところが、律法学者、パリサイ人たちは、理屈を言い始めた。「神をけがすことを言うこの人は、いったい何者だ。神のほかに、だれが罪を赦すことができるよ。」

5:22 その理屈を見抜いておられたイエスは、彼らに言われた。「なぜ、心の中でそんな理屈を言っているのか。」

5:23 『あなたの罪は赦された。』と言うのと、『起きて歩け。』と言うのと、どちらがやさしいか。

5:24 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに悟らせるために。」と言って、中風の人に、「あなたに命じる。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」と言われた。

5:25 すると彼は、たちどころに人々の前で立ち上がり、寝ていた床をたたんで、神をあげめながら自分の家に帰った。

5:26 人々はみな、ひどく驚き、神をあげめ、恐れに満たされて、「私たちは、きょう、驚くべきことを見た。」と言った。

イエス様は旧約に預言された救い主であるというしるしに、癒しをなさいました。それは罪の赦しとも関連することです。しかし、その癒しによって人々を驚かせて信仰に入れようとはなさいませんでした。あくまでも信仰は、身代わりの十字架を信じることによる、罪の赦しによらなければならぬからです。そうでないと、神様との関係が回復しないからです。

ですからイエス様は「だれにも話してはいけない。」とおっしゃったのです。ただし旧約の律法を尊重することは正しいことなので、「祭司ののころへ行って…」とおっしゃいました。

主の働きをするのは尊いことですが、その役割と時を踏まえることは、役に立つためには重要で

す。中風の人の癒しによって、イエス様は信仰の何たるかを表しておられるようです。友の癒しのために、協力する姿に真の共同体があります。主は共同体に働く聖霊によってみわざをなして下さいます。そのことをチャレンジしてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



5:27 この後、イエスは出て行き、収税所にすわっているレビという取税人に目を留めて、「わたしについて来なさい。」と言われた。

5:28 するとレビは、何もかも捨て、立ち上がってイエスに従った。

5:29 そこでレビは、自分の家でイエスのために大ぶるまいをしたが、取税人たちや、ほかに大ぜいの人たちが食卓に着いていた。

5:30 すると、パリサイ人やその派の律法学者たちが、イエスの弟子たちに向かって、つぶやいて言った。「なぜ、あなたがたは、取税人や罪人どもといっしょに飲み食いするのですか。」

5:31 そこで、イエスは答えて言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。」

5:32 わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。」

5:33 彼らはイエスに言った。「ヨハネの弟子たちは、よく断食をしており、祈りもしています。また、パリサイ人の弟子たちも同じなのに、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」

5:34 イエスは彼らに言われた。「花婿がいっしょにいるのに、花婿につき添う友だちに断食させることが、あなたがたにできますか。」

5:35 しかし、やがてその時が来て、花婿が取り去られたら、その日には彼らは断食します。」

5:36 イエスはまた一つのたとえを彼らに話された。「だれも、新しい着物から布切れを引き裂いて、古い着物に継ぎをするようなこ

とはしません。そんなことをすれば、その新しい着物を裂くことになるし、また新しいのを引き裂いた継ぎ切れも、古い物には合わないのです。

5:37 また、だれも新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒は流れ出て、皮袋もだめになってしまいます。

5:38 新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れなければなりません。

5:39 また、だれでも古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物は良い。』と言うのです。」

マタイを弟子として召されたイエス様に対して、さっそく批判が出ました。パリサイ人や律法学者は、自分たちの権威が重要でしたから、罪人と自分を区別したがるのでした。一方イエス様は、罪びとを区別するのが目的ではなく、救うことが目的です。私たちも、自分のすばらしさを表すより、人のために何が必要かを考えましょう。

イエス様は律法と福音の違いを明らかにしました。福音は花婿なるイエス様とともにいられることであり、またぶどう酒のように楽しさでもあります。それは律法とは相容れないものです。喜びと感謝によって行動するのです。正しい行いは一緒ですが、喜びと恵みによって、行動しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:1 ある安息日に、イエスが麦畑を歩いておられたとき、弟子たちは麦の穂を摘んで、手でもみ出しては食べていた。

6:2 すると、あるパリサイ人たちが言った。「なぜ、あなたがたは、安息日にしてはならないことをするのですか。」

6:3 イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、ダビデが連れの者といっしょにいて、ひもじかったときにしたことを読まなかったのですか。」

6:4 ダビデは神の家にはいて、祭司以外の者はだれも食べてはならない供えのパンを取って、自分も食べたし、供の者にも与えたではありませんか。」

6:5 そして、彼らに言われた。「人の子は、安息日の主です。」

6:6 別の安息日に、イエスは会堂にはいて教えておられた。そこに右手のなえた人がいた。

6:7 そこで律法学者、パリサイ人たちは、イエスが安息日に人を直すかどうか、じっと見ていた。彼を訴える口実を見つけるためであった。

6:8 イエスは彼らの考えをよく知っておられた。それで、手のなえた人に、「立って、真中に出なさい。」と言われた。その人は、起き上がって、そこに立った。

6:9 イエスは人々に言われた。「あなたがたに聞きますが、安息日にしてよいのは、善を行なうことなのか、それとも悪を行なうことなのか。いのちを救うことなのか、それとも失うことなのか、どうですか。」

6:10 そして、みなの人を見回してから、その

人に、「手を伸ばしなさい。」と言われた。そのとおりになると、彼の手は元どおりになった。

6:11 すると彼らはすっかり分別を失ってしまつて、イエスをどうしてやろうかと話し合った。

安息日の問題が浮上しました。神様を第一にするのが安息日ですが、これを律法として形だけ守って、勤めを果たしたと思つてはなりません。イエス様を主として、人のために愛する思いをささげ、そのようにして神様への礼拝を全うすることです。

「人の子（イエス様）」が安息日の主ですから、イエス様を喜ばせるようにしましょう。その行いをもイエス様にささげましょう。また律法的にではなく、心から進んで、喜びとともに礼拝をささげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:12 このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。

6:13 夜明けになって、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をつけられた。

6:14 すなわち、ペテロという名をいただいたシモンとその兄弟アンデレ、ヤコブとヨハネ、ピリポとバルトロマイ、

6:15 マタイとトマス、アルパヨの子ヤコブと熱心党員と呼ばれるシモン、

6:16 ヤコブの子ユダとイエスを裏切ったイスカリオテ・ユダである。

6:17 それから、イエスは、彼らとともに山を下り、平らな所にお立ちになったが、多くの弟子たちの群れや、ユダヤ全土、エルサレム、さてはツロやシドンの海べから来た大ぜいの民衆がそこにいた。

6:18 イエスの教えを聞き、また病気を直していただくために来た人々である。また、汚れた霊に悩まされていた人々もいやされた。

6:19 群衆のだれもが何とかしてイエスにさわろうとしていた。大きな力がイエスから出て、すべての人をいやしたからである。

6:20 イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話された。「貧しい者は幸いです。神の国はあなたがたのものですから。

6:21 いま飢えている者は幸いです。あなたがたは、やがて飽くことができますから。いま泣いている者は幸いです。あなたがたは、いまに笑うようになりますから。

6:22 人の子のために、人々があなたがたを憎むとき、また、あなたがたを除名し、はずかしめ、あなたがたの名をあしざまにけなすと

き、あなたがたは幸いです。

6:23 その日には、喜びなさい。おどりがあって喜びなさい。天ではあなたがたの報いは大きいからです。彼らの先祖も、預言者たちをそのように扱ったのです。

6:24 しかし、富んでいるあなたがたは、哀れな者です。慰めを、すでに受けているからです。

6:25 いま食べ飽きているあなたがたは、哀れな者です。やがて、飢えるようになるからです。いま笑っているあなたがたは、哀れな者です。やがて悲しみ泣くようになるからです。

6:26 みなの人にほめられるときは、あなたがたは哀れな者です。彼らの先祖は、にせ預言者たちをそのように扱ったからです。

イエス様は人間に福音の宣教を任せられました。人を洗脳して意のままにするのではなく、あくまでも自由意志によって信仰決心するためでしょう。人が人に救いのよき知らせを伝えるのです。私たちにもそれがゆだねられています。

そのためにまずはイエス様は弟子をお選びになりました。彼らは個性的な人ばかりで、社会的には相容れない閉経の人も含まれています。イエス様を裏切ることになるユダまで含まれています。しかしそこに主のみわざが表されるのです。私たちも気の合う人ばかりでなく、合わない人とも交わりをして、成長とみわざを見るようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:27 しかし、いま聞いているあなたがたに、わたしはこう言います。あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行ないなさい。

6:28 あなたをのろう者を祝福しなさい。あなたを侮辱する者のために祈りなさい。

6:29 あなたの片方の頬を打つ者には、ほかの頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着も拒んではいけません。

6:30 すべて求める者には与えなさい。奪い取る者からは取り戻してはいけません。

6:31 自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。

6:32 自分を愛する者を愛したからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。罪人たちでさえ、自分を愛する者を愛しています。

6:33 自分に良いことをしてくれる者に良いことをしたからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。罪人たちでさえ、同じことをしています。

6:34 返してもらおうつもりで人に貸してやったからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。貸した分を取り返すつもりなら、罪人たちでさえ、罪人たちに貸しています。

6:35 ただ、自分の敵を愛しなさい。彼らによくしてやり、返してもらおうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いはすばらしく、あなたがたは、いと高き方の子どもになれます。なぜなら、いと高き方は、恩知らずの悪人にも、あわれみ深いからです。

6:36 あなたがたの天の父があわれみ深いよう

に、あなたがたも、あわれみ深くしなさい。

6:37 さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません。人を罪に定めてはいけません。そうすれば、自分も罪に定められません。赦しなさい。そうすれば、自分も赦されます。

6:38 与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらおうからです。」

イエス様のもとに、現世的な恵みを求めて多くの方がやってきました。イエス様は彼らにそれ以上のことをお教えになりました。すなわち神の国についてです。この神の国とは神に支配のことで

す。神の国すなわち神の支配を生きる者は、この世の価値観とは違う生き方をします。自分をのろう者を祝福したり、また敵を愛したりということなのです。これらのことは神様を知らなければ、できないことです。損をしたり危うくなったりするからです。しかし、神様を信じる私たちは、本当に損をしない生き方、安心な生き方は神様の愛を実践することだと知っています。

ここにイエス様が教えておられるような生き方を身に着けましょう。そしてそこから恵みを受けましょう。すぐにご褒美がもらえるということではないでしょうが、人生に大きな祝福をいただけますので、主を信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





6:39 イエスはまた一つのたとえを話された。「いったい、盲人に盲人の手引きができるでしょうか。ふたりとも穴に落ち込まないでしょうか。」

6:40 弟子は師以上には出られません。しかし十分訓練を受けた者はみな、自分の師ぐらいにはなるのです。

6:41 あなたは、兄弟の目にあるちりが見えながら、どうして自分の目にある梁には気がつかないのですか。

6:42 自分の目にある梁が見えずに、どうして兄弟に、『兄弟。あなたの目のちりを取らせてください。』と言えますか。偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうしてこそ、兄弟の目のちりがはっきり見えて、取りのけることができるのです。

6:43 悪い実を結ぶ良い木はないし、良い実を結ぶ悪い木也没有ありません。

6:44 木はどれでも、その実によってわかるものです。いばらからいちじくは取れず、野ばらからぶどうを集めることはできません。

6:45 良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。なぜなら人の口は、心に満ちているものを話すからです。

6:46 なぜ、わたしを『主よ、主よ。』と呼びながら、わたしの言うことを行なわないのですか。

6:47 わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行なう人たちがどんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。

6:48 その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似

ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せたときも、しっかり建てられていたから、びくともしませんでした。

6:49 聞いても実行しない人は、土台なしで地面に家を建てた人に似ています。川の水が押し寄せると、家は一べんに倒れてしまい、そのこわれ方はひどいものとなりました。」

人のことはよく分かるものです。どこが間違っているかを教えてあげるのは親切かもしれませんが。しかし、それで人が変わるかという、そうでない場合があります。言い方が的確でないかもしれません。またタイミングやその人の気持ちもあるでしょう。

もしも自分の中にある間違いにも気づかないようであるなら、相手に効果的な伝え方ができないだけでなく、本当の必要に気づかないかもしれません。自分の間違いに気づかないのは、目の中に「梁」があるからだ、イエス様は言われます。まずは自分自身の罪に気づきましょう。

またイエス様は行いのある信仰の大切さを語られます。そもそも実践しよう、従おうと思ってみことばを聴いているか、これが大切です。それが土台です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

